

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

学校法人都築育英学園は、昭和41年8月、「個性の伸展による人生練磨」を建学の精神として設置を認可された。人間は生来、その人にしかない長所や美点、特質、その人らしさといわれる第一義的特性、仏教で謂うところの〈第一義諦〉（だいいちぎたい）を有しており、それを教育の力によって引き出し、永遠に輝かせたいという理念から「個性の伸展による人生練磨」を本学園の教育の本義としている。大学教育における個性とは、アカデミックに洗練された専門性を意味している。

上述の観点から、日本経済大学では、深遠な学術を研究教授し、学生が得意とする専門分野を選択できるよう各種規程で定めている。学生は、本学が設定した2学部6学科17の多様なコースの中から自分に適したものを選択することにより、『個性＝専門性』を集中特化また、模倣できない独自の領域を確立していくことになる。コースは、それぞれの専門性を高められる様、スポーツマネジメントコース、ホテル・観光ビジネスコース、SDGs・環境ビジネスコースなど理論と実践を体現できるものとしている。さらには、時代のニーズを先取りし、Society 5.0時代に活躍できる人材育成を目的として、文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業で採択された本学独自のe-portfolioシステムを活用し、学生の夫々の個性や特性を認知し伸ばさせていき、本学の教育方針である「自信をつけさせて世界に送り出す」というミッションを果たしていく。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

一生涯「元気で楽しく」生きることの重要性が叫ばれているなか、生活習慣病予防や介護のための運動指導、年代を超えた多くの人々に運動・スポーツの楽しみ方や健康体力の増進について適切なアドバイスができる専門家の育成と、健康スポーツ関連事業を企画、管理、運営する人材の育成が求められている。

このような中、この度、保健体育の教職課程認定を受ける健康スポーツ経営学科は、経営学を基礎とし、経営学と保健体育学の学際的な知識、技術を学習し、スポーツ経営分野における独自性、専門性を追求した個性的なリーダーを育成することを目的として設置された。

より具体的には、健康スポーツ経営学科は次のような到達目標を掲げている。

- ① 経営学・保健体育学など多面的視点からスポーツを考察し、スポーツを媒介としたマネジメント能力を育成する。
- ② スポーツの健康増進への役割についても多面的・総合的に考察し、健康増進やスポーツの社会的発展に貢献できる人材を育成する。
- ③ 保健体育科の教員免許をはじめ、「スポーツリーダー」、「健康運動実践指導者」等の資格取得を目指し、教員、指導者として活躍できる人材を育成する。

このような目標を踏まえ、健康スポーツ経営学科では、経営学と保健体育学に関連した科目をバランスよく組み合わせてカリキュラムを編成し、実践的能力を総合的かつ多角的に修得できるようにしている。経営学分野では、「経営学・会計学・商学等」のビジネス領域の科目を学修し、保健体育学に関連する分野では、健康・スポーツに関する科学的理論を学ぶ科目や実践する科目、健康・スポーツの技能を修得する科目、健康スポーツ分野の経営学関連科目を学修する。健康・スポーツに関連する科目は、「トレーニング科学」や「スポーツ指導論」、「スポーツ栄養学」のようなスポーツ指導者に必要な科目だけでなく、障害者スポーツやレクリエーションに関する科目も開設し、幅広い年代の人々に対して、スポーツを通じた健康増進のための指導ができる知識と能力を持った人材を育成する。この学科を

修めて卒業した学生には、次のような進路が開かれている。

- ① 競技別指導員、上級指導員、コーチ、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー等
- ② スポーツ施設でのインストラクターおよびトレーナー、医療・福祉・保育事業等におけるスポーツ指導者、スポーツ関連企業での営業、経理等の担当者、健康関連食品販売事業等の担当者、健康やスポーツに関連する起業による経営管理者等

(2) 教員養成に対する理念・構想

①大学

本学では、建学の精神に基づいて、経済分野への旺盛な探求心を持ち、何事にも挑戦する気概を持った多種多様な学生を幅広く受け入れ、入学後は更にそうした学生の個性を伸ばし、文化の創造発展に貢献できる経済・経営の専門家として育てていくことに情熱を注いでいる。創立時は、経済学科・経営学科・貿易学科の3学科を擁する大学として開学し、社会の発展に寄与する人材の育成に努めてきた。平成26年度からは、新たに経営学部を設置し、2学部6学科体制でグローバル化が進展する情報社会・国際社会に適切に対応できる人材の育成に取り組んでいる。教員養成においても、建学の精神に則り、学生一人ひとりの「個性を発見し、発展させ、活かしていく」学びの過程の充実を教育の基本としながら、グローバルな視野、柔軟で創造的な思考力、高度な専門性を有する教員の養成を図っている。特に九州圏には、生徒たちの個性の伸展をめざして総合学科あるいは専門学科を設置し、多様な分野の専門教育や特色ある教育実践を展開させている中学校、高等学校が多数ある。そのことから、修得した専門的な知識技術を活かしながらこれらの学校の教育実践を支え、即戦力として貢献できる教員を輩出することは、「個性の伸展による人生練磨」を建学の精神とする本学の使命と考える。特に一人ひとりの個性を活かすため、1年次では自己啓発セミナー（S.D.セミナー）、2年次では基礎ゼミ、3・4年次では個別指導による専門ゼミを必修科目として設置し、キャリア形成支援体制を構築するとともにインターンシップ支援にも力を注いでいる。これら本学独自のカリキュラムを通して、次のような教員を養成する。

- 個性の伸展による豊かな人間性と熱意あふれる教員
- 創造性を活かし、様々な課題に対して仲間と協働しながら解決できる教員
- 専門性に基づく実践的指導力を有する教員
- 探究心旺盛で、自ら学び続ける教員

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

健康スポーツ経営学科においては、次の教員養成構想を持っている。新学習指導要領における中学校、高等学校の保健体育の教育・指導および健康増進法の目的に基づき、国民のあらゆる年齢層の健康維持について、健康増進事業実施者と連携して国民の健康を増進し保健の向上を図れる人材を育成すること。そして、教職免許取得後の進路としては、中学校、高等学校の教員のみならず、教員養成課程で得た専門性を発揮できる進路において活躍することを目指す。具体的には、こどもに対する運動指導、健康運動指導士・健康運動実践指導者など健康づくりのための運動指導者、中高老年期運動指導士、介護予防運動指導員など様々な分野で活躍できるコーディネーターや管理者、経営者等の人材育成である。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

この度、課程認定を申請する「健康スポーツ経営学科」は、健康・スポーツに関する科学的な理論と実

践方法、そしてスポーツ技能を修得するとともに、スポーツ関連の経営組織、経営管理、経営戦略といった企画・運営能力を身につけるための経営学を修得する。また、本学は、昨年、文科省より「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業実施機関に選定されており、教育のDX化を推進しているため、健康スポーツ経営学科においても、デジタルを活用した運動能力分析、パフォーマンス分析などの授業を展開している。一方、高校では、2022年度より、新科目「情報Ⅰ」が実施されるが、本学では情報やデジタル教育を積極的に促進させており、全学生を対象としたデータサイエンスの教育を実施している。「デジタルを活用した教育」を実践する本学で学んだ学生がGIGAスクール構想の進む中学、高校現場にてICTを駆使した授業展開ができる保健体育の教員としての活躍が期待される。

これまでの健康スポーツ経営学科への出願者の中には、スポーツ関連、健康関連企業等への就職希望を持ちながら、同時に教員免許状を取得したいと希望する者も多いことから、その期待に応えることの意義は大きいと考える。

また、近隣の高等学校進路指導担当教員等からの本学への「保健体育」の教員養成に対する期待値も高い。

上記に述べた事から、教員免許取得を希望する学生のために、健康スポーツ経営学科の教育課程の特徴を活かした上で、「保健体育」の教職免許取得の機会を学生に提供することは、学生の将来の進路の選択肢を増やすだけでなく、地域スポーツ振興に貢献し地域社会発展の一翼を担う上で、とても重要であり且つ必要不可欠なものであると考える。

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	教務委員会
目的：	教務に関する事項全般について審議する。
責任者：	教務部長
構成員(役職・人数)：	教務部長、各学科長、教務部長補佐、教職課程主任、教務課長、教務委員若干名
運営方法：	教務部長と教務課が連携し実務を担当。教務委員に教職課程運営委員会の代表者1名参画。

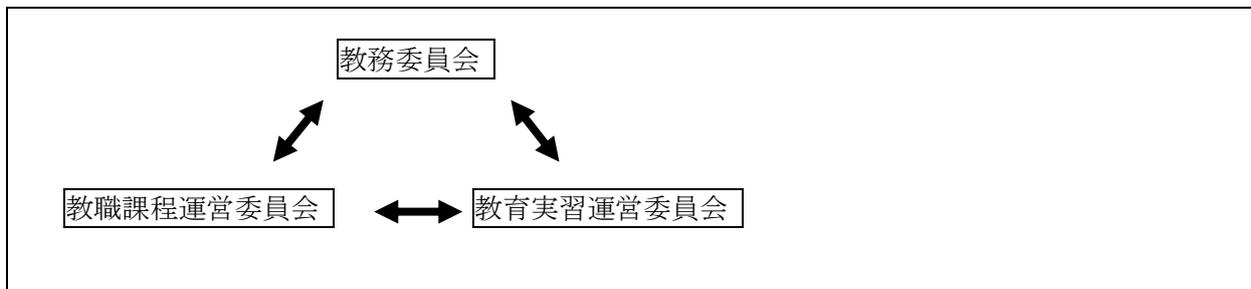
②

組織名称：	教職課程運営委員会
目的：	教職課程カリキュラムの検討および大学教員の授業の質の向上、教育実習を含む教職課程の実施にともなって発生するさまざまな問題に対応する。
責任者：	教務部長
構成員(役職・人数)：	教務部長、各学科長、教職課程主任、教職課程担当者 若干名
運営方法：	委員長(教職課程主任教員)および教務課が教職課程担当教員と連携し実務を担当する。

③

組織名称：	教育実習運営委員会
目的：	教育実習に関する事項について審議する。
責任者：	教職課程主任教員
構成員(役職・人数)：	教職課程所属教員、教職実習関係科目担当教員、教職課程担当者 若干名
運営方法：	委員長(教職課程主任教員)および教務課が教職実習関係科目担当教員と連携し実務を担当する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

「福岡県介護等体験連絡協議会」における活動を中心に、県・市の教育委員会との連携協力を図っている。また、教育実習の実施に関する諸事項について「福岡市教育委員会」「太宰府市教育委員会」「太宰府市中学校校長会」との協議を行っている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称： 地域の学力補充学級への参加

連携先との調整方法： 教育委員会、各小中学校代表者の協議による本学側への依頼

具体的な内容： 夏季休暇中に出張指導

②

取組名称： 学校への支援

連携先との調整方法： 教育委員会、各小中学校代表者の協議による本学側への依頼

具体的な内容： 運動会・部活動への指導

③

取組名称： 地域や河川等の清掃活動への参加

連携先との調整方法： 地域の小中学校からの依頼

具体的な内容： 河川の清掃・廃品回収等

Ⅲ. 教職指導の状況

教職課程の教員と教務課の教職課程担当者が連携し、各年度の履修ガイダンス、履修指導を行っている。教職課程担当教員の研究室には、小・中・高の学習指導要領、教科書、教員採用試験対策のテキスト、過年度実習生の指導案が準備されており、オフィスアワーの時間を設け、さまざまな相談に対応している。また、教育実習に向けての補充授業を行っている。

様式第7号ウ

＜健康スポーツ経営学科＞（認定課程：中一種免（保健体育））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	66条の6に関する科目を中心とした基礎科目、及び専門科目の1年次配当科目である経済学、経営学等を学ぶ。これらの基礎科目を学ぶことで「健康スポーツ経営学科」で学ぶ基礎力を培う。教科についての「スポーツ史」でスポーツの歴史を学び、チームスポーツの実践を通して、学科内の連帯感、一体感も養う。さらに大学生としてのこれからの4年間の学びと教員免許取得という目標設定への動機づけを図る。
	後期	前期同様、66条の6に関する科目を中心とした基礎科目、及び専門科目を学ぶ。「教育原理」や「教育史」を学ぶことで、教育の理念や教職の意義及び教員の役割・職務内容を実践できるようにする。また、2年次以降の教職科目の履修に向けて具体的な動機づけを図る。
2年次	前期	専門科目である「スポーツ生理学」「地域スポーツ振興論」を学び、スポーツと人間、地域とスポーツの関わりを理解する。実技科目を履修し、ネット型球技の技能向上を図る。また、「道徳教育の指導法」「教育史」「教育制度論」等を履修し、道徳の理論や教育の社会的制度的な基礎理論を学ぶことで学校教育を理解し、教育についての基本を理解する。さらに、「保健体育科教育法ⅠA」「保健体育科教育法ⅡA」、により保健体育科の目的、内容、方法について知識と技術を身につける。また、「教育の方法及び技術」でICTを活用した指導方法を学ぶ。
	後期	「スポーツ社会学」「運動機能解剖学」などを学び、保健体育科教員として必要な知識を修得する。「教育課程論」「教育心理学」を学ぶことでより深く教育の基本原則について理解する。また「保健体育科教育法ⅠB」「保健体育科教育法ⅡB」で内容の理解と授業運営の仕方を学ぶとともに、学校現場における指導法について知識や実践力を身につける。
3年次	前期	「スポーツ心理学」「水泳・水中運動」等で教科について学修を深める。「教育相談」によって生徒とのかかわり方について知識と技術を修得するとともに実践において対応できるようにする。「教育実習Ⅰ」で学修を深める。「特別活動及び総合的な学習時間の指導」により、学校現場における指導法について知識や実践力を身につけ、保健体育科の目的、内容、方法について知識と技術を深める。
	後期	「ダンス」「武道」で実技科目を身につけ、「学校保健概論」「救急処置法」等で科目で保健や救急処置について学修を深める。「生徒・進路指導論」によって教員として必要な生徒指導や進路指導の知識や実践力を身につける。また、次年度の教育実習に向けた準備を行い、教職に対する意欲や技術・知識を備えて実習に取り組めるようにする。
4年次	前期	教育実習に向けて事前指導を十分に行い、実習が円滑に進むよう指導する。実習においては実習校において指導教員のもとで生徒との直接的な交流を通して教職の体験を積み、教員としての基礎的実践能力を養う。これまで学んだ知識を実際の学校教育において実践するための創意工夫や問題解決能力などを養う。実習後は自らの教育実践について優れた点、反省すべき点、今後の課題となることを総括する。それをもとに今後に向けての展望をもたせる。
	後期	「教職実践演習（中・高）」ではこれまでの学修と教育実習での体験を踏まえ、ロールプレイング・事例研究・フィールドワーク・模擬授業など実践的演習を取り入れた授業を通じて、現職教員に求められている資質や能力を身につけ、学校現場で予想される諸問題に対処できるようにし、具体的に教育を展開していくための能力と態度を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜健康スポーツ経営学科＞（認定課程：中一種免（保健体育））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的 事項に関する科目	大学が独自に設定 する科目	施行規則第66条の6に 関する科目	その他教職課程に関連 のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期				スポーツ史		スポーツ	健康管理論
							英語IVA	トレーニング科学
								情報リテラシー I (ビジネススキル)
	後期	2	B	教育原理			スポーツ	運動障害と救急処置
		2	C	教職論			英語IVB	
							日本国憲法	
						情報リテラシー II (AI・データサイエンス)		
2年次	前期	2	C	教育制度論	スポーツ生理学			スポーツ経営学
		2	B	教育史	地域スポーツ振興論			測定評価演習
		3	K	教育の方法及び技術 (ICTの活用含む)	器械運動(体づくり運動を含む)			スポーツビジネス論
		3	H	道德教育の指導法	バスケットボール			健康スポーツ演習 I
		1	A	保健体育科教育法 I A	公衆衛生学			
		1	A	保健体育科教育法 II A				
	後期	2	E	教育心理学	スポーツ社会学			スポーツ栄養学
		2	G	教育課程論	運動機能解剖学			スポーツ組織論
		1	A	保健体育科教育法 I B	陸上競技			健康スポーツ演習 II
		1	A	保健体育科教育法 II B	バドミントン			スポーツコーチング論
3年次	前期	3	M	教育相談	スポーツ心理学			レクリエーション論
		4		教育実習 I	水泳・水中運動			コミュニティスポーツ実践演習
		3	J1	特別活動及び総合的な学習時間の指導法				スポーツビジネス実践演習
								健康スポーツ演習 III
	後期	4	LN	生徒・進路指導論	ダンス			スポーツ経営管理論
		2	F	特別支援教育	剣道			スポーツ経営戦略論
					救急処置法			スポーツコーチング実践演習
					学校保健概論			健康スポーツ演習 IV
								レクリエーション指導演習
4年次	前期	4		教育実習 II				
	後期	4		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

<健康スポーツ経営学科> (認定課程: 高一種免(保健体育))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	66条の6に関する科目を中心とした基礎科目、及び専門科目の1年次配当科目である経済学、経営学等を学ぶ。これらの基礎科目を学ぶことで「健康スポーツ経営学科」で学ぶ基礎力を培う。教科についての「スポーツ史」でスポーツの歴史を学び、チームスポーツの実践を通して、学科内の連帯感、一体感も養う。さらに大学生としてのこれからの4年間の学びと教員免許取得という目標設定への動機づけを図る。
	後期	前期同様、66条の6に関する科目を中心とした基礎科目、及び専門科目を学ぶ。「教育原理」や「教育史」を学ぶことで、教育の理念や教職の意義及び教員の役割・職務内容を実践できるようにする。また、2年次以降の教職科目の履修に向けて具体的な動機づけを図る。
2年次	前期	専門科目である「スポーツ生理学」「地域スポーツ振興論」を学び、スポーツと人間、地域とスポーツの関わりを理解する。実技科目を履修し、ネット型球技の技能向上を図る。また、「教育史」「教育制度論」等を履修し、教育の社会的制度的な基礎理論を学ぶことで学校教育を理解し、教育についての基本を理解する。さらに、「保健体育科教育法ⅠA」「保健体育科教育法ⅡA」、により保健体育科の目的、内容、方法について知識と技術を身につける。また、「教育の方法及び技術」でICTを活用した指導方法を学ぶ。
	後期	「スポーツ社会学」「運動機能解剖学」などを学び、保健体育科教員として必要な知識を修得する。「教育課程論」「教育心理学」を学ぶことでより深く教育の基本原則について理解する。また「保健体育科教育法ⅠB」「保健体育科教育法ⅡB」で内容の理解と授業運営の仕方を学ぶとともに、学校現場における指導法について知識や実践力を身につける。
3年次	前期	「スポーツ心理学」「水泳・水中運動」等で教科について学修を深める。「教育相談」によって生徒とのかかわり方について知識と技術を修得するとともに実践において対応できるようにする。「特別活動及び総合的な学習時間の指導」により、学校現場における指導法について知識や実践力を身につけ、保健体育科の目的、内容、方法について知識と技術を深める。
	後期	「ダンス」「武道」で実技科目を身につけ、「学校保健概論」「救急処置法」等で科目で保健や救急処置について学修を深める。「生徒・進路指導論」によって教員として必要な生徒指導や進路指導の知識や実践力を身につける。また、次年度の教育実習に向けた準備を行い、教職に対する意欲や技術・知識を備えて実習に取り組めるようにする。
4年次	前期	教育実習に向けて事前指導を十分に行い、実習が円滑に進むよう指導する。実習においては実習校において指導教員のもとで生徒との直接的な交流を通して教職の体験を積み、教員としての基礎的実践能力を養う。これまで学んだ知識を実際の学校教育において実践するための創意工夫や問題解決能力などを養う。実習後は自らの教育実践について優れた点、反省すべき点、今後の課題となることを総括する。それをもとに今後に向けての展望をもたせる。
	後期	「教職実践演習(中・高)」ではこれまでの学修と教育実習での体験を踏まえ、ロールプレイング・事例研究・フィールドワーク・模擬授業など実践的演習を取り入れた授業を通じて、現職教員に求められている資質や能力を身につけ、学校現場で予想される諸問題に対処できるようにし、具体的に教育を展開していくための能力と態度を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜健康スポーツ経営学科＞（認定課程：高一種免（保健体育））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的 事項に関する科目	大学が独自に設定 する科目	施行規則第66条の6に 関する科目	その他教職課程に関連 のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期				スポーツ史		スポーツ	健康管理論
							英語IVA	トレーニング科学
								情報リテラシー I (ビジネススキル)
	後期	2	B	教育原理			スポーツ	運動障害と救急処置
		2	C	教職論			英語IVB	
							日本国憲法	
						情報リテラシー II (AI・データサイエンス)		
2年次	前期	2	C	教育制度論	スポーツ生理学			スポーツ経営学
		2	B	教育史	地域スポーツ振興論			測定評価演習
		3	K	教育の方法及び技術 (ICTの活用含む)	器械運動(体づくり運動を含む)			スポーツビジネス論
		1	A	保健体育科教育法ⅠA	バスケットボール			健康スポーツ演習Ⅰ
		1	A	保健体育科教育法ⅡA	公衆衛生学			
	後期	2	E	教育心理学	スポーツ社会学			スポーツ栄養学
		2	G	教育課程論	運動機能解剖学			スポーツ組織論
		1	A	保健体育科教育法ⅠB	陸上競技			健康スポーツ演習Ⅱ
		1	A	保健体育科教育法ⅡB	バドミントン			スポーツコーチング論
3年次	前期	3	M	教育相談	スポーツ心理学			レクリエーション論
		3	J1	特別活動及び総合的な学習時間の指導法	水泳・水中運動			コミュニティスポーツ実践演習
								スポーツビジネス実践演習
								健康スポーツ演習Ⅲ
	後期	4	LN	生徒・進路指導論	ダンス			スポーツ経営管理論
		2	F	特別支援教育	剣道			スポーツ経営戦略論
					救急処置法			スポーツコーチング実践演習
					学校保健概論			健康スポーツ演習Ⅳ
								レクリエーション指導演習
4年次	前期	4		教育実習Ⅱ				
	後期	4		教職実践演習(中・高)				